



ソフトウェア・メトリクス調査2026

～クラウド・パッケージ・アジャイル開発の メトリクス考案に向けた事前サーベイ～

2026年4月
ソフトウェア・メトリクス調査プロジェクト

本調査実施の背景と目的

- ▶ 変化に迅速に対応していくことが求められる中、システム開発環境が多様化
- ▶ 企業IT動向調査における「工期・予算・品質」が悪化傾向
→開発環境の多様化も一因と考えられる

クラウド環境・パッケージ利用・アジャイル型開発手法を前提とした開発プロジェクトにおけるTIPS（ノウハウ）とメトリクス（評価指標）の検討を目的に、アンケートの実施・事例ヒアリング・TIPSの考察分析を実施

ソフトウェア・メトリクス プロジェクト

■ 本調査を目的にユーザー企業を中心に構成

氏名	所属	役職
高橋 徹	株式会社 資生堂	イノベーショングループ グループマネージャー
小宮 英二	ANAシステムズ 株式会社	品質技術部 プロセス統括チーム クオリティマネジメントオフィサー
Yumashish Subba	株式会社 JTB	IT企画チーム シニアディレクター
三尋木 辰哉	株式会社 JPX総研	ITビジネス部 統括課長
飯盛 真次	株式会社 ジェーシービー	システム企画部 システムリスク・サイバーセキュリティ統括室 主査
佐藤 弘司	株式会社 大同ITソリューションズ	本社センター センター長
中島 雄一	東日本旅客鉄道 株式会社	イノベーション戦略本部 システムマネジメントユニット 統括マネージャー
掛水 勇作	株式会社 JR東日本情報システム	経営企画部・次長
金子 幸正	株式会社 JR東日本情報システム	総務部 次長
山森 一頼	株式会社 日立製作所	金融デジタルイノベーション本部 シニアシステムアーキテクト
大熊 眞次郎	シフト&シナジー	代表



クラウド
(IaaS/PaaS)



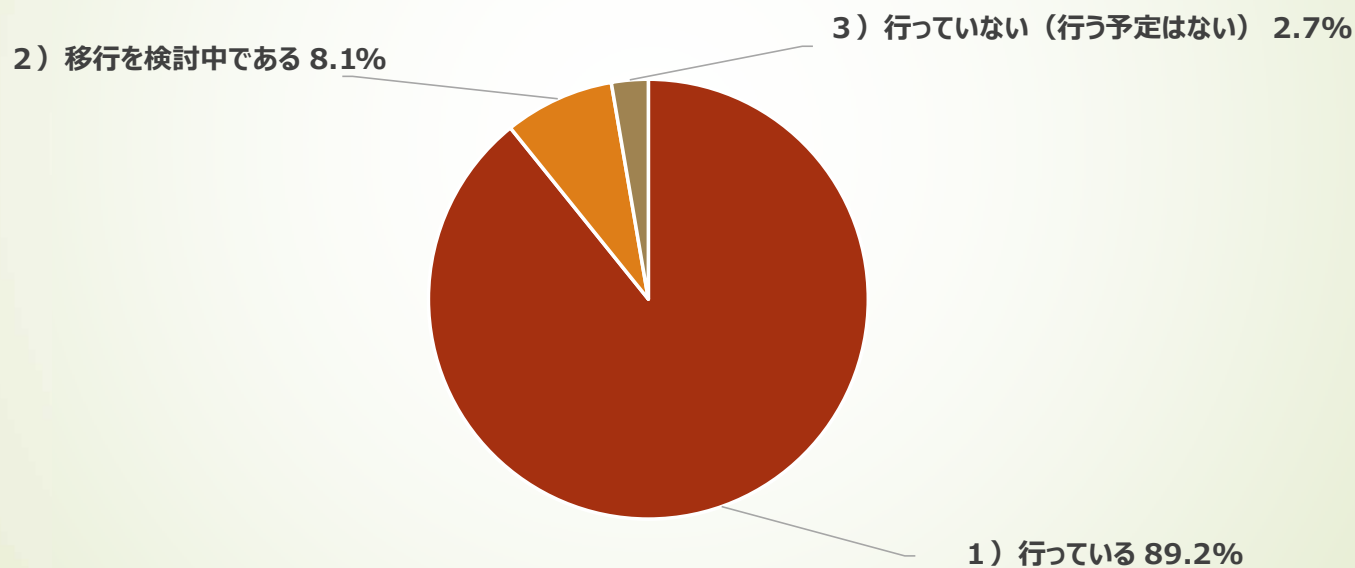
パッケージ
(SaaSを含む)



アジャイル

採用状況

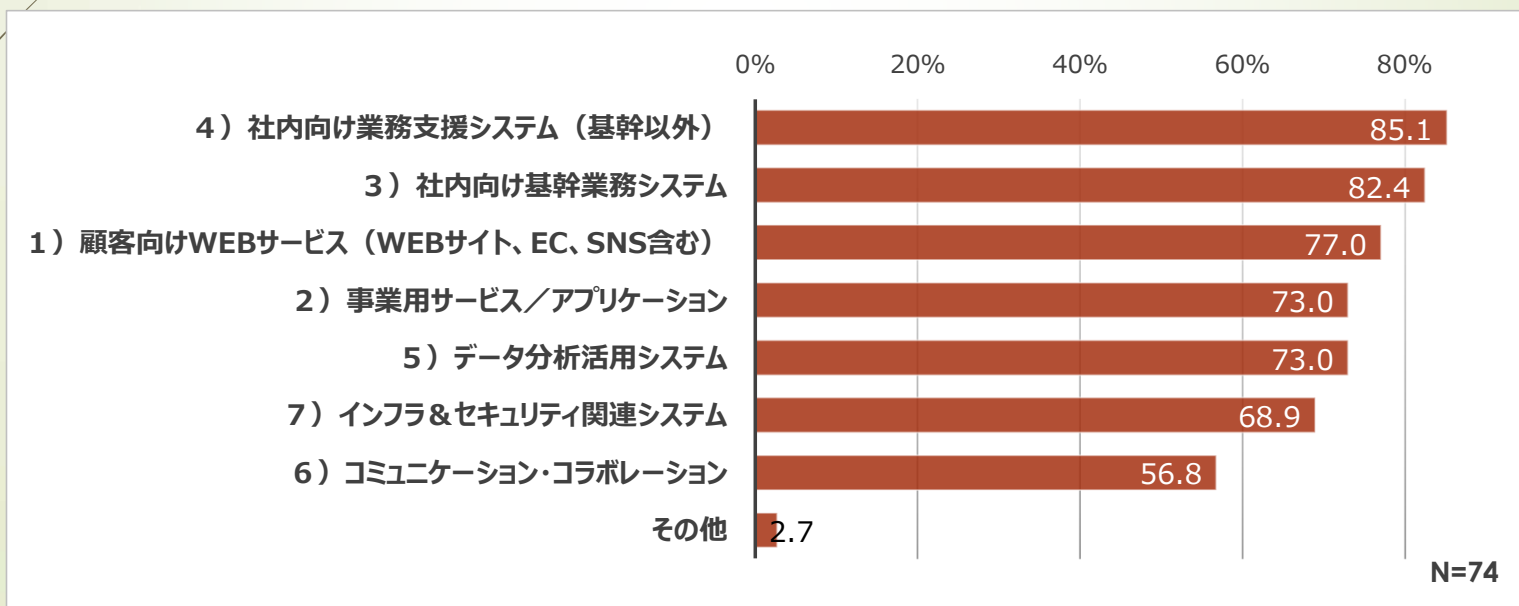
- 変化の激しい市場に対応し、事業継続性を確保しながら競争力に直結する重要な経営戦略及びIT戦略として、クラウド上でのシステム開発に肯定的



N=74

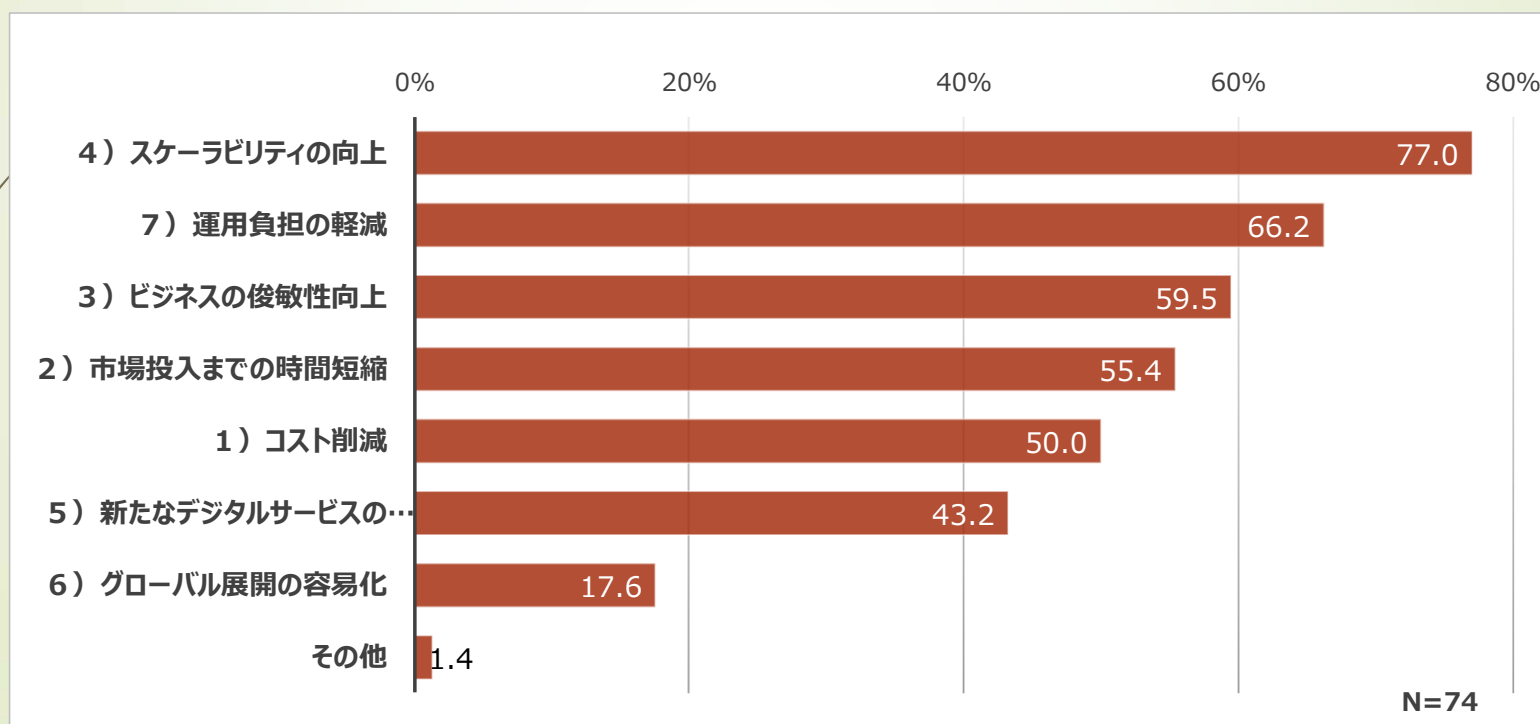
対象領域

- 企業のクラウド環境の捉え方
 - ・企業の根幹業務を支える上で十分な信頼性と安定性を備えたプラットフォーム
 - ・ビジネス成長とイノベーションを加速させるための戦略的なエンジン
 - ・データ駆動経営や堅牢なIT環境の基盤
- ほぼ全てのシステム構築にクラウド環境を利用



ビジネス価値

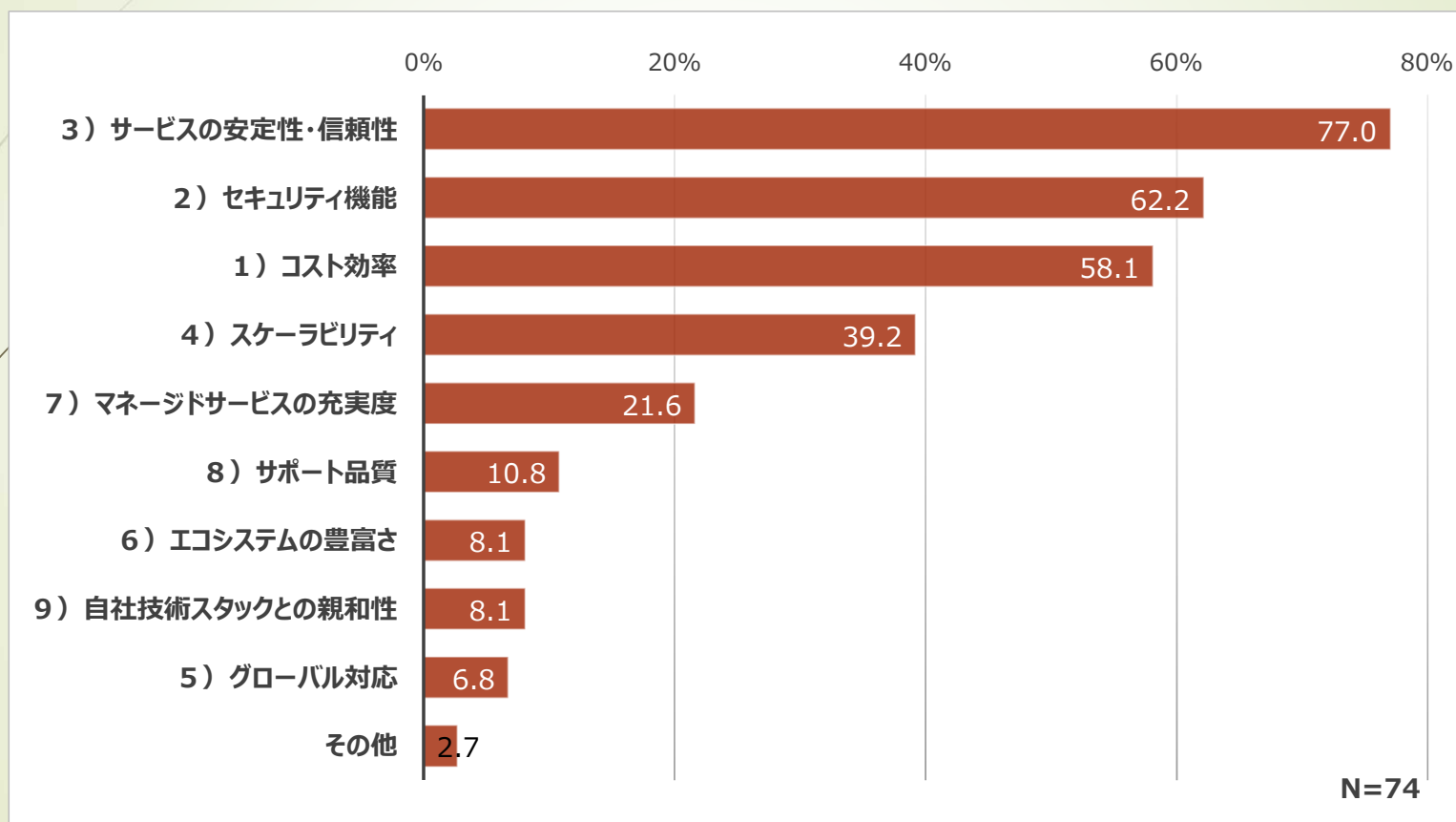
- 重要視しているビジネス価値（攻め＞守り）
 - ・スケーラビリティの向上
 - ・運用負担の軽減
 - ・ビジネスの俊敏性向上、及び、市場投入までの時間短縮



選定基準

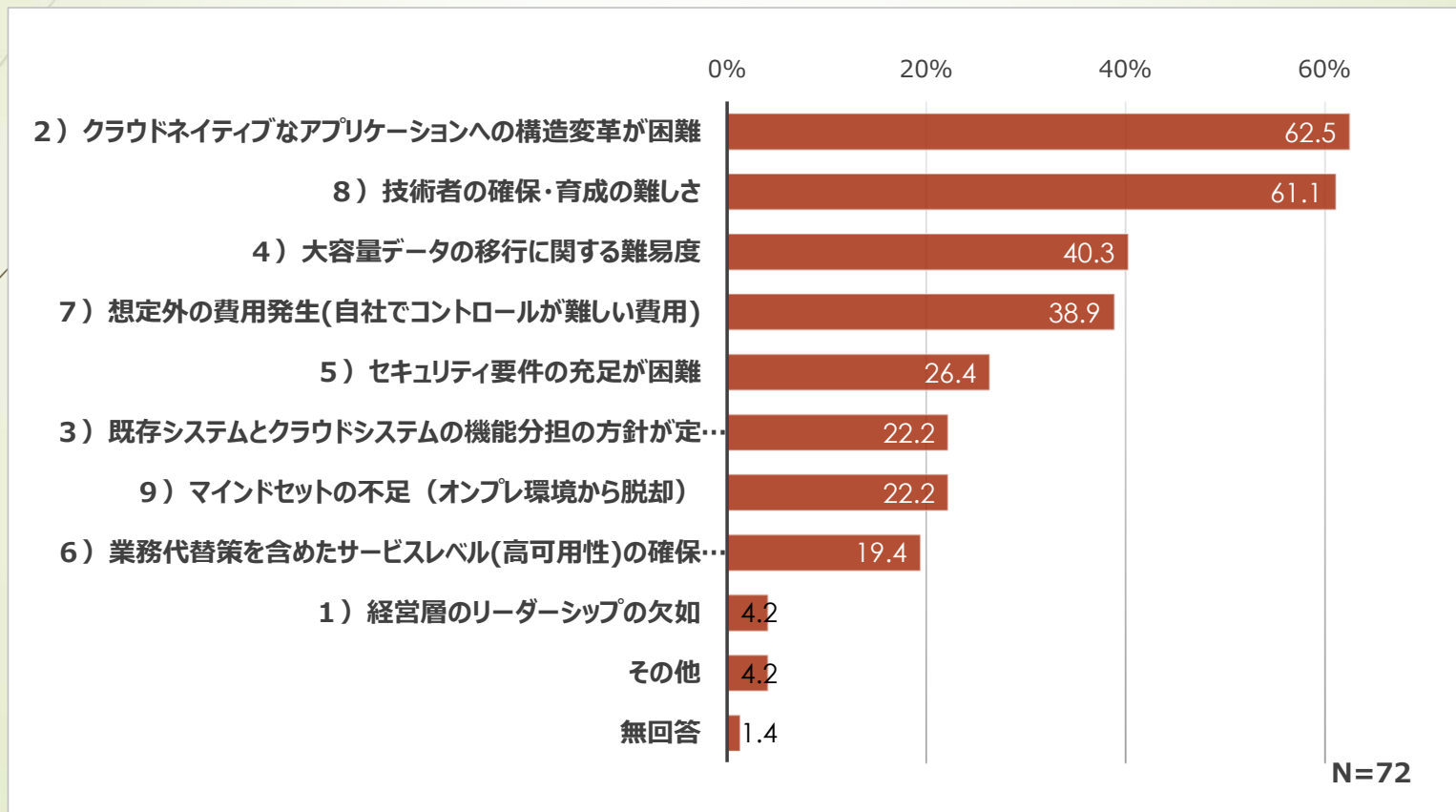
7

➡ ビジネス価値を実現するため、非常に現実的かつ慎重な視点でサービスを選定



主要課題（構造変革と人材確保）

- クラウド移行プロジェクトの成否は、技術の導入とその技術を扱うことができる人材の確保・育成



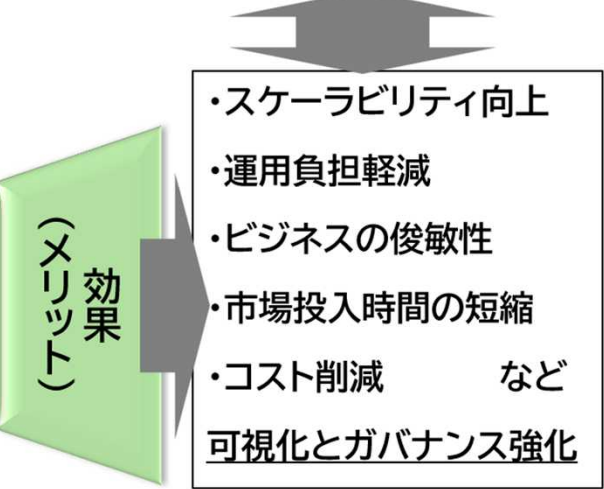
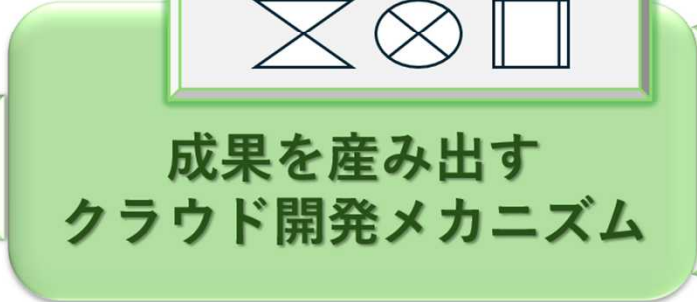
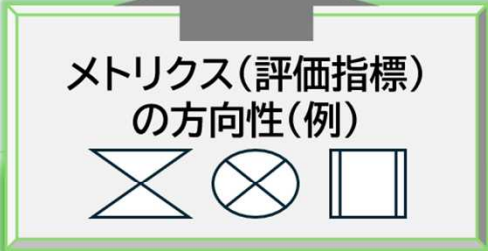
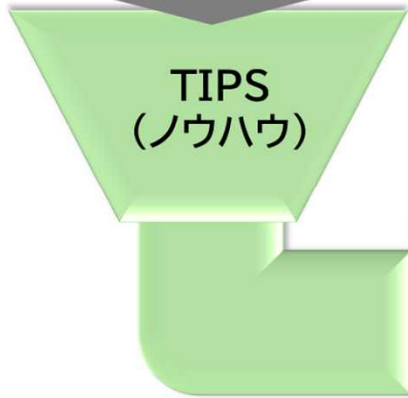
TIPSとメトリクスの方向性

- ・サービス選定の重要要素 (安定性&信頼性、セキュリティ等)
- ・クラウドネイティブ技術の採用 (コンテナ化、サーバーレス、APIGW)
- ・マルチクラウド利用 (必要となるサービス機能に基づく) など

1. コスト最適化: FinOps成熟度、無駄なリソース削減率 他
2. 俊敏性: デプロイ頻度、変更リードタイム 他
3. 技術運用: IaC導入率、DevOps/SRE成熟度 他
4. 人材: クラウド有識者数 他

主要課題

- ✓ クラウドネイティブなアプリケーションへの構造変革
- ✓ 技術者の確保・育成
- ✓ 大容量データ移行
- ✓ 想定外の費用発生
- ✓ セキュリティ要件の充足 など





クラウド
(IaaS/PaaS)



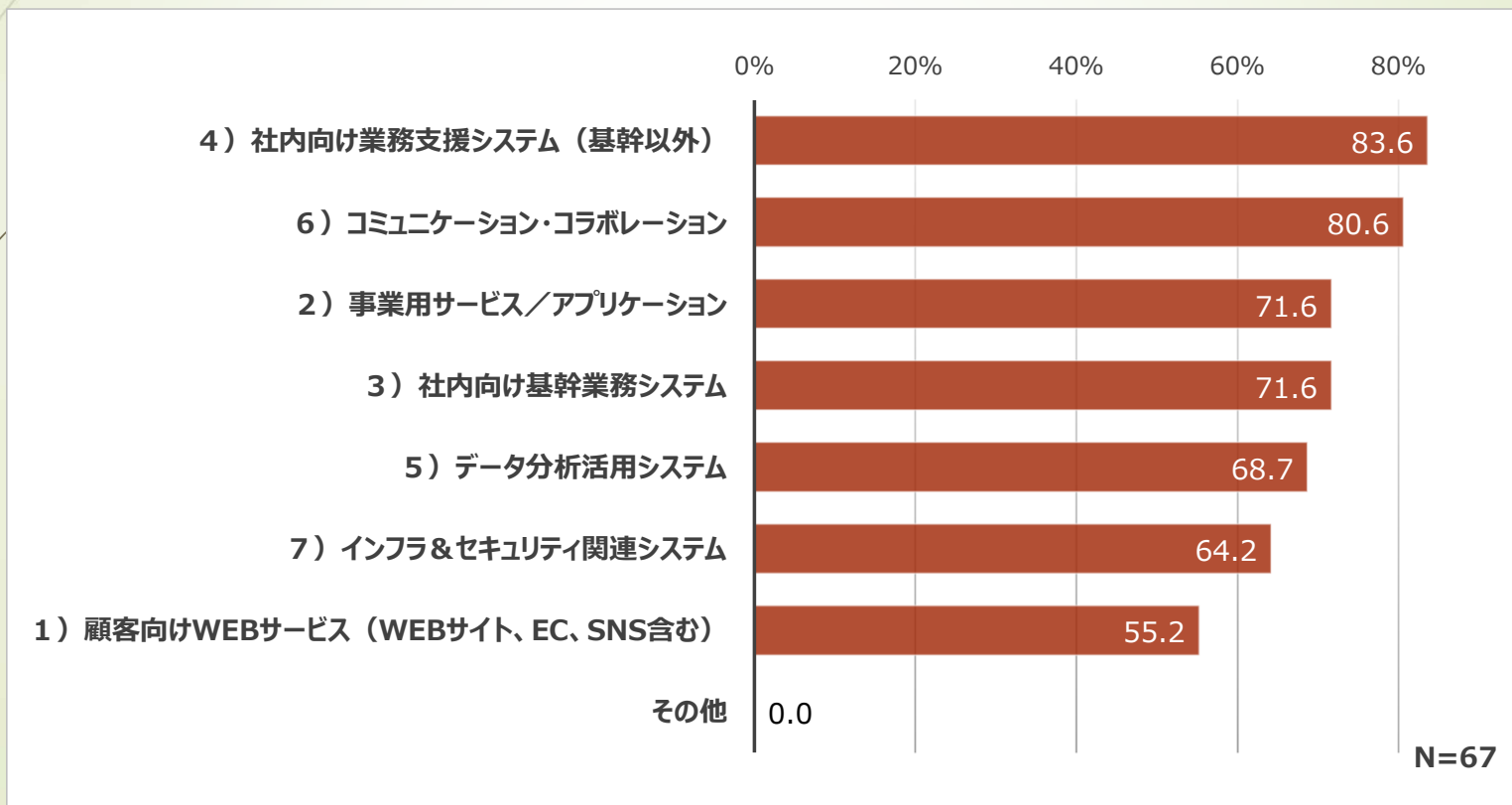
パッケージ
(SaaSを含む)



アジャイル

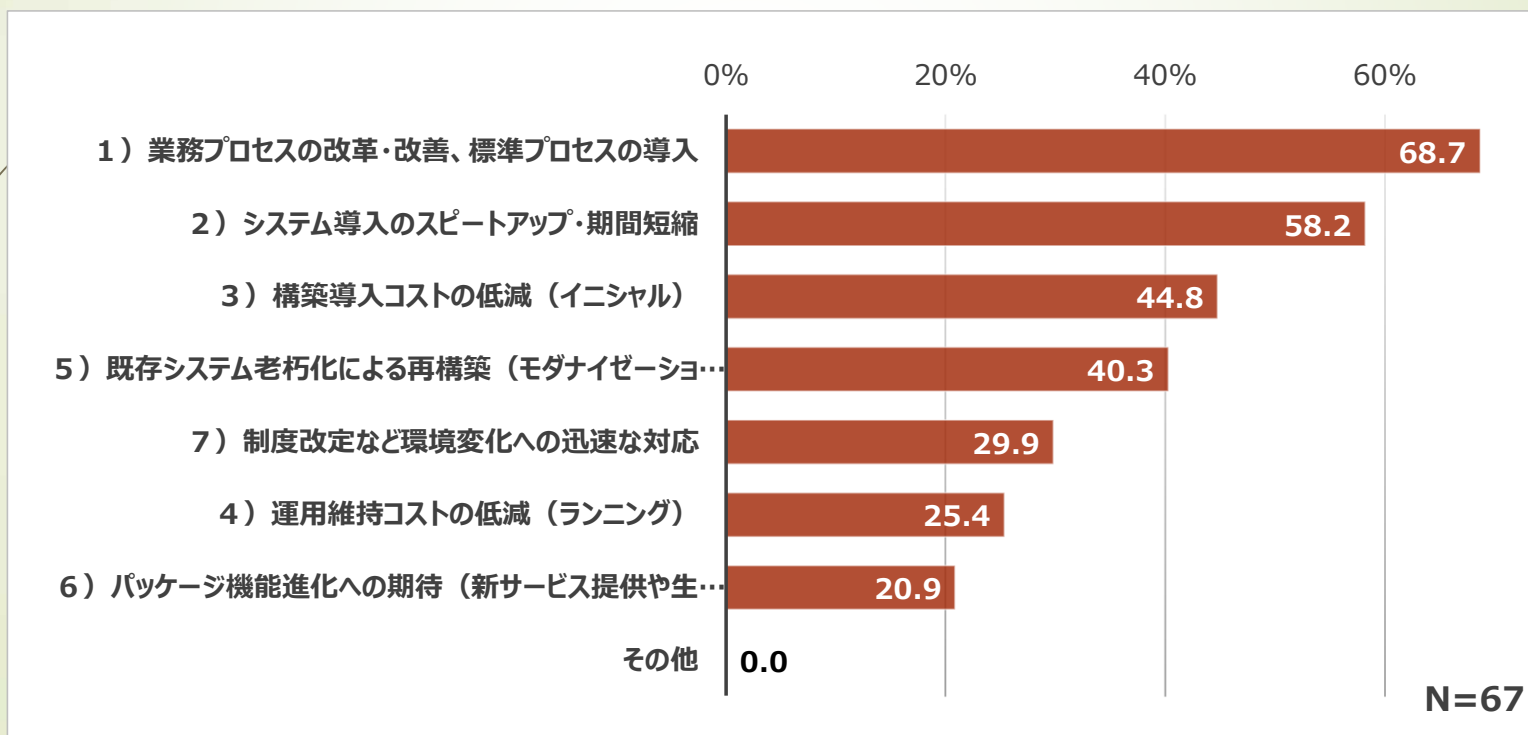
対象領域

- あらゆる業務活動を支える広範なプラットフォーム
 - ・従来は、基幹業務システムのように定型的な社内業務領域が中心的な役割
 - ・顧客起点での業務プロセス改革やデータ駆動経営にパッケージを戦略的に利用



戦略的な目的

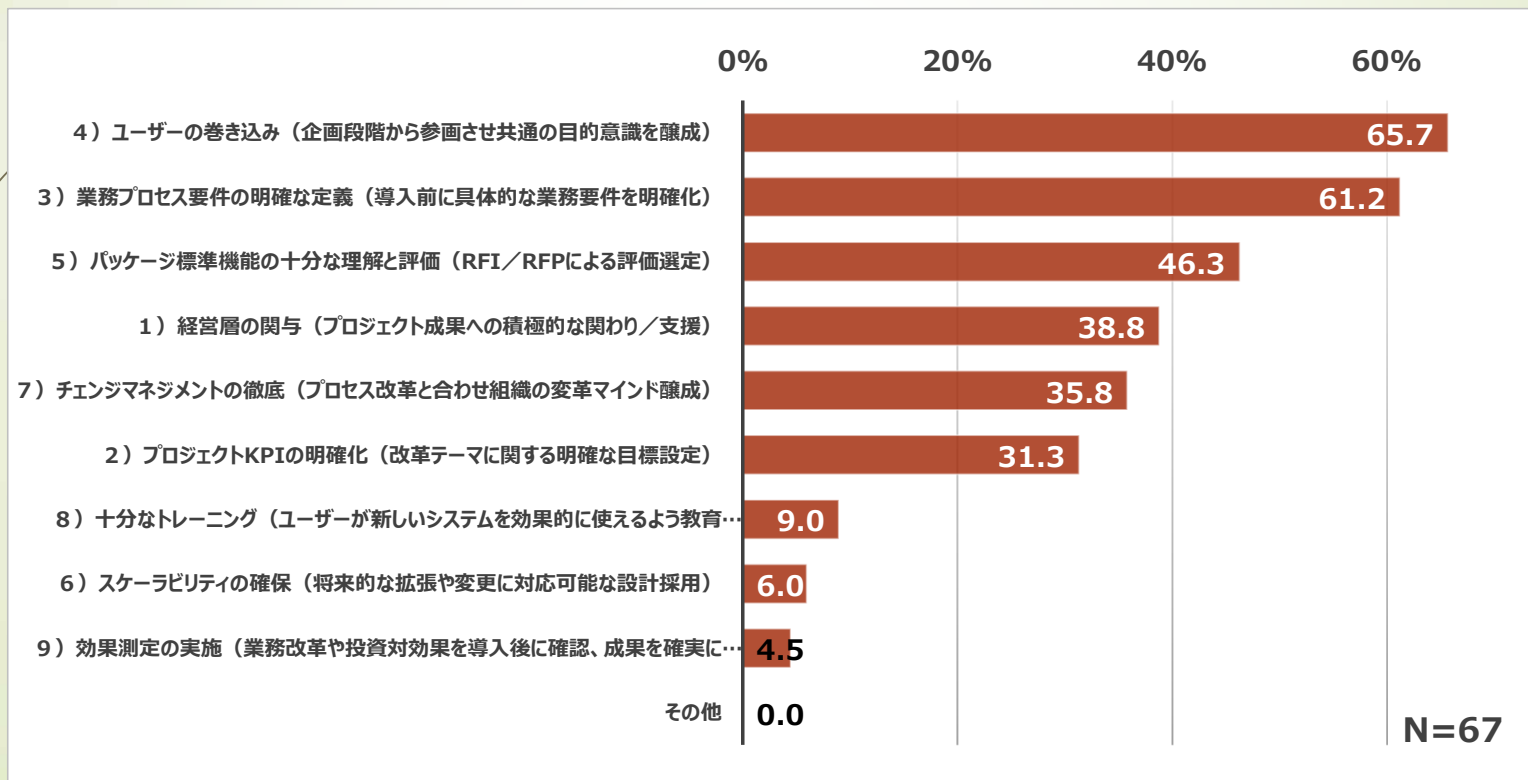
- ▶ パッケージ戦略の目的
 - ・業務の抜本的な見直しと標準化による効率化・高度化
 - ・システム導入のスピードアップ・期間短縮
 - ・構築導入コストの低減（イニシャル）



成功への鍵

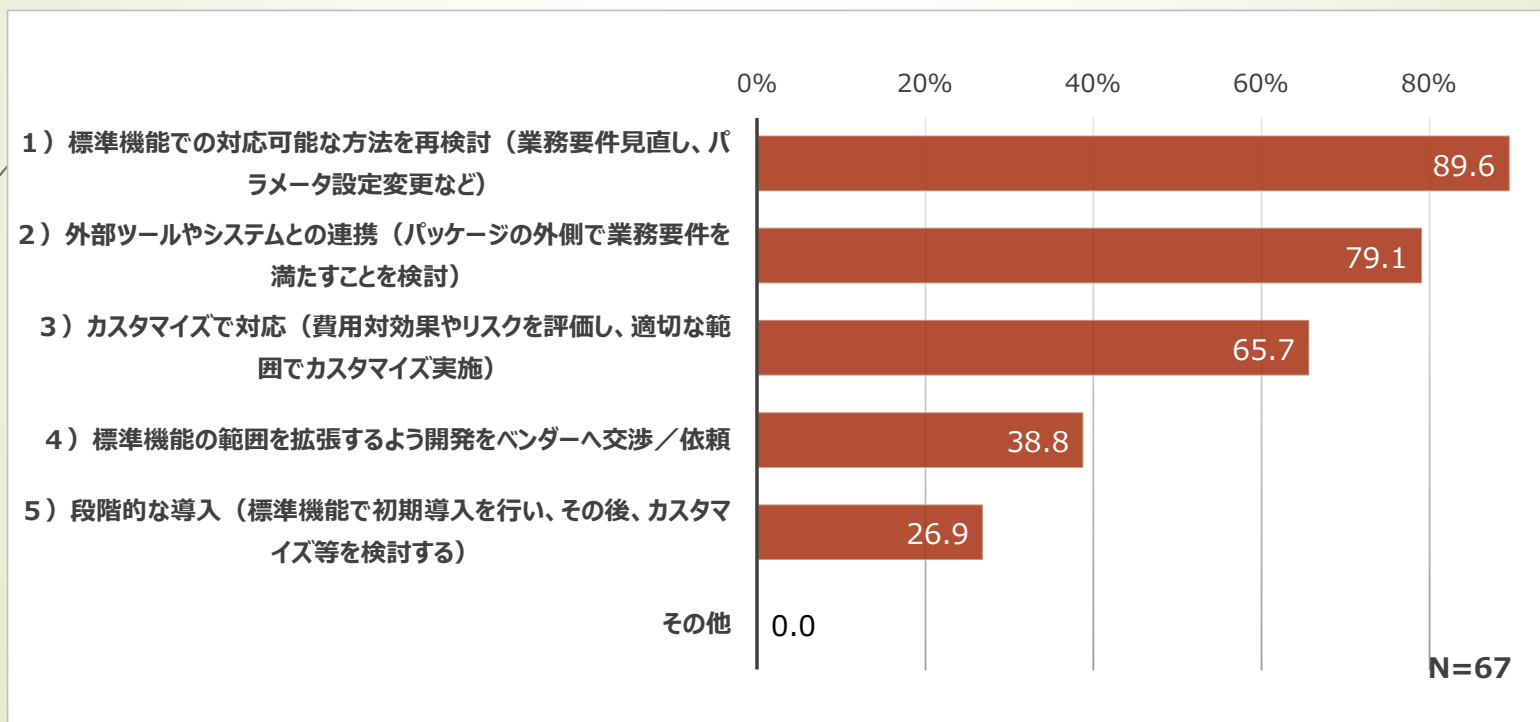
▶ パッケージ導入成功の鍵

- ・業務部門を積極的に参画させ、共通の目的意識を醸成する
- ・「As-Is」の課題を正確に把握し、「To-Be」の業務プロセスを明確に定義する
- ・標準機能の範囲と限界を深く理解し、自社要件と比較し、徹底的に評価する



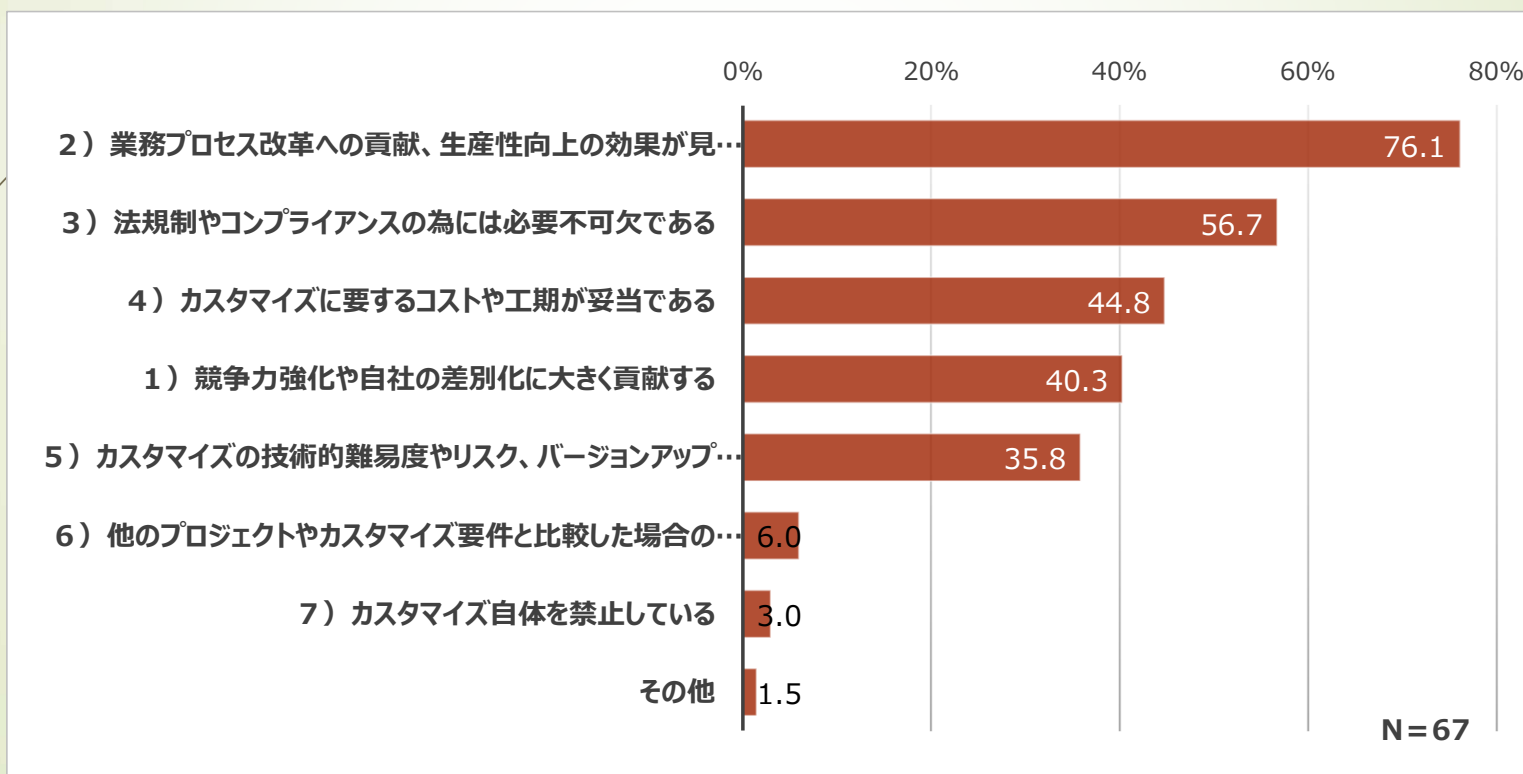
主要課題（カスタマイズへの対応方針）

- カスタマイズに対しては極めて慎重な姿勢
 - ・最優先策：標準機能での対応可能な方法を再検討
 - ・次善策：外部ツールやシステムとの連携
 - ・最終手段：カスタマイズで対応



主要課題（カスタマイズ判断基準）

- 単なる現状維持のためではなく、ビジネス価値向上に直接的に貢献する
- 外部要因によってカスタマイズが避けられない
- 投資・実現手段の妥当性、保守運用面でリスク有無



TIPSとメトリクスの方向性

目的地へと導く
パッケージ活用
航海図

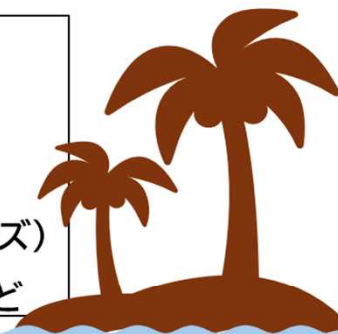


TIPS (ノウハウ)

- ①業務プロセスの改革・改善
⇒ユーザー巻き込み、要件の明確な定義、標準機能の理解
- ②計画通りのQCDでの推進
⇒パッケージ検証徹底と適切な選定、Fit to Standard方針への拘り、適切なベンダー選定、プロジェクトリスク管理の徹底
- ③パッケージ選定の重要項目
⇒標準機能の充実度、自社要件への適合度、市場での実績、導入時間やコスト など

効果(メリット)

- ・業務プロセス改革・改善、標準プロセス導入
- ・システム導入のスピードアップ、期間短縮
- ・構築導入コストの低減
- ・既存システム老朽化による再構築(モダナイズ)
- ・制度改定など環境変化への迅速な対応 など



メトリクス(評価指標)の方向性(例)

- 1. 適合性: 標準機能と業務の適合度(FIT率)
- 2. カスタマイズ: カスタマイズ量(量と割合)
- 3. ライフサイクル: バージョンアップ対応コスト
- 4. 導入目的(KGI、KPI)達成度 など



主要課題

- カスタマイズ要件への対応優先度の徹底
- 優先① 標準機能での対応方法の再検討
 - 優先② 外部ツールやシステムとの連携
- その後、ROIやリスク評価し最適範囲でカスタマイズ など



クラウド
(IaaS/PaaS)



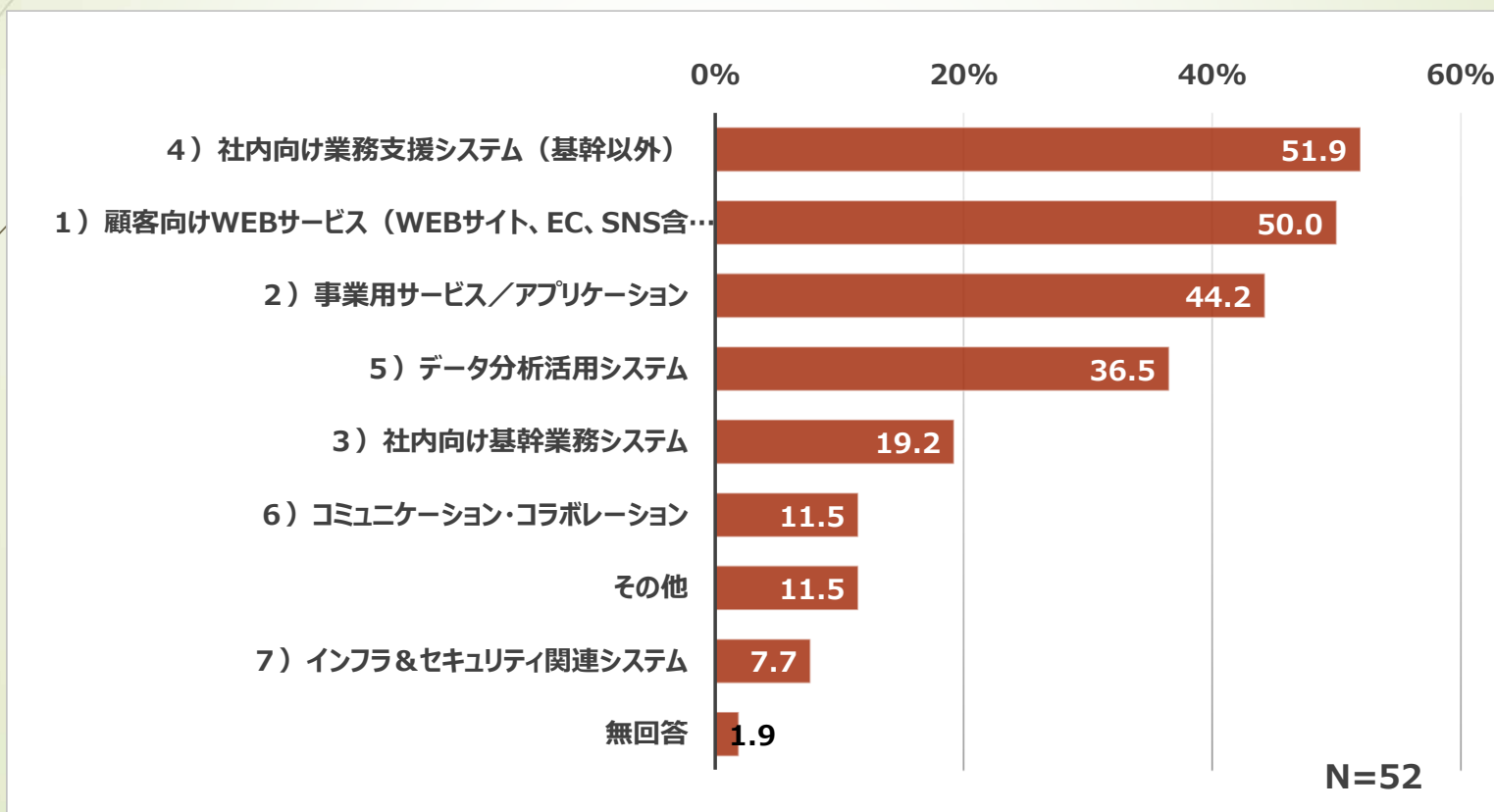
パッケージ
(SaaSを含む)



アジャイル

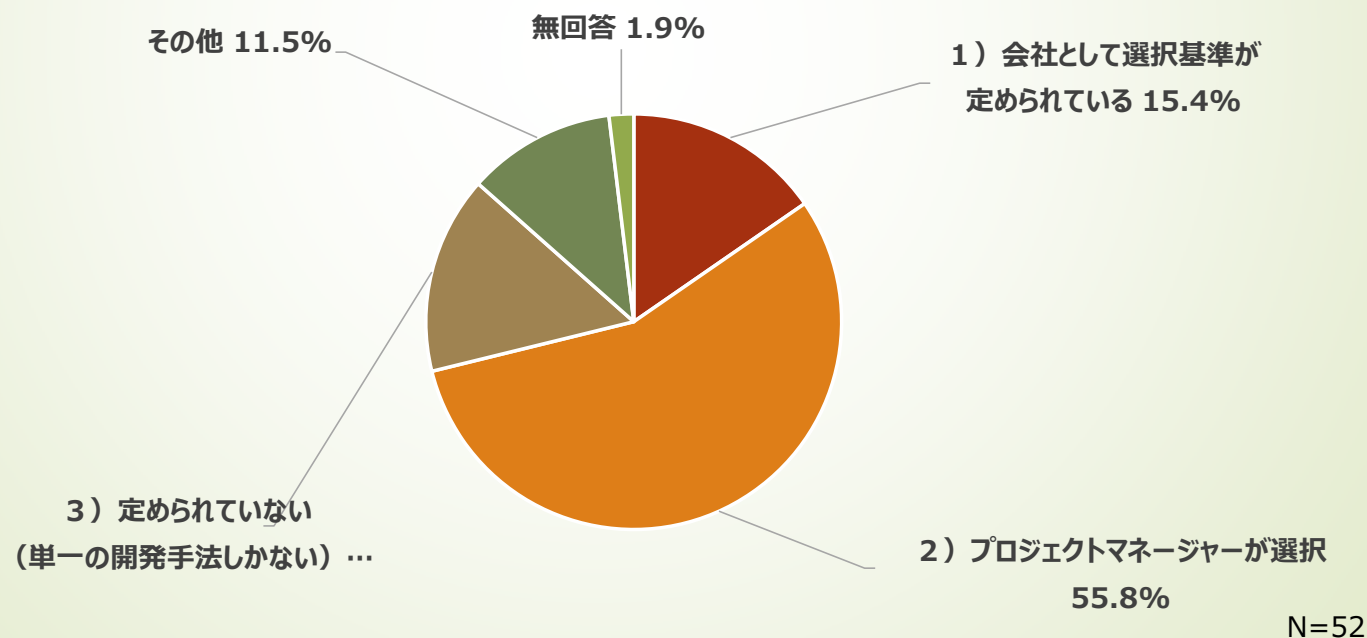
対象領域

- 仕様や設計をしっかりと固め開発テストを行う必要がある基幹業務システムの領域はウォーターフォール開発で確実に行うが、不確実性が高く変化に柔軟であるべき基幹業務システムの周辺領域はアジャイル開発で対応する、という使い分け



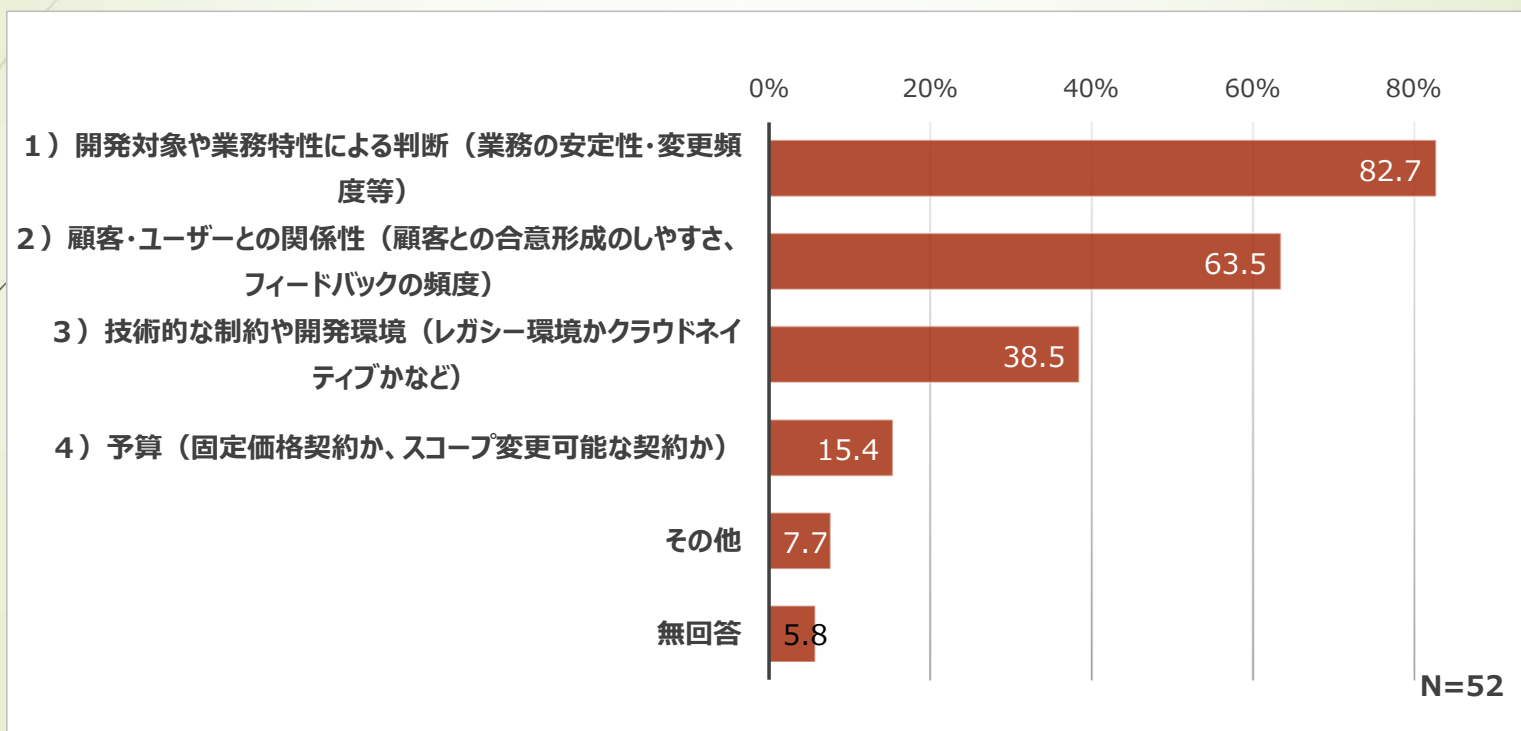
適用判断の実態

- ▶ アジャイル開発の採用という戦略的判断が組織全体ではなくプロジェクトを率いるマネージャー次第で決まるという、ある種の属人化リスクを窺わせる
- ▶ プロジェクトの特性に応じた最適な開発手法の選択が組織的に行われておらず、未だ発展途上にある



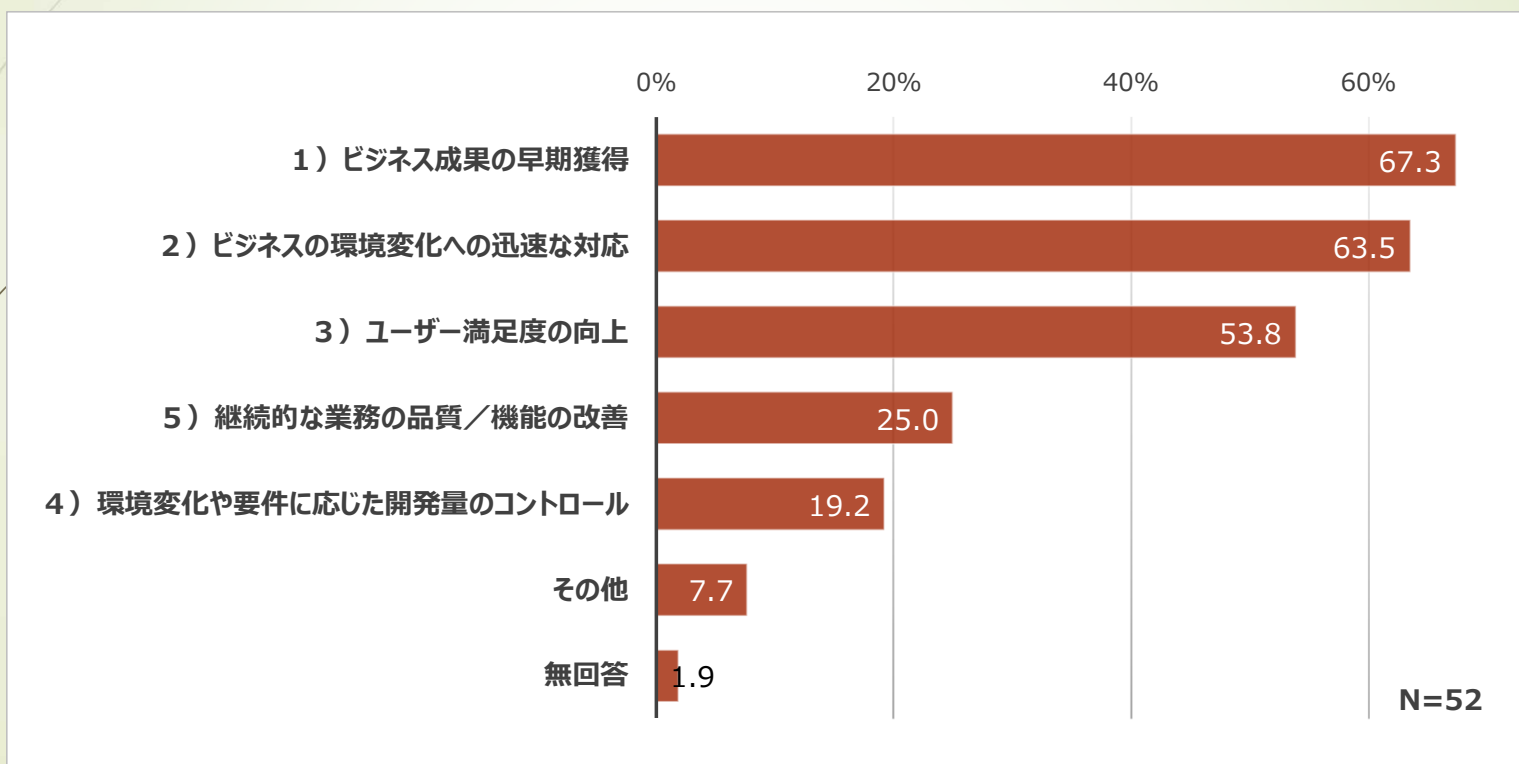
適用の判断基準

- 「不確実性が高く、顧客との密な連携を通じて仕様を具体化していくプロジェクト」において効果を発揮する手法として理解されている



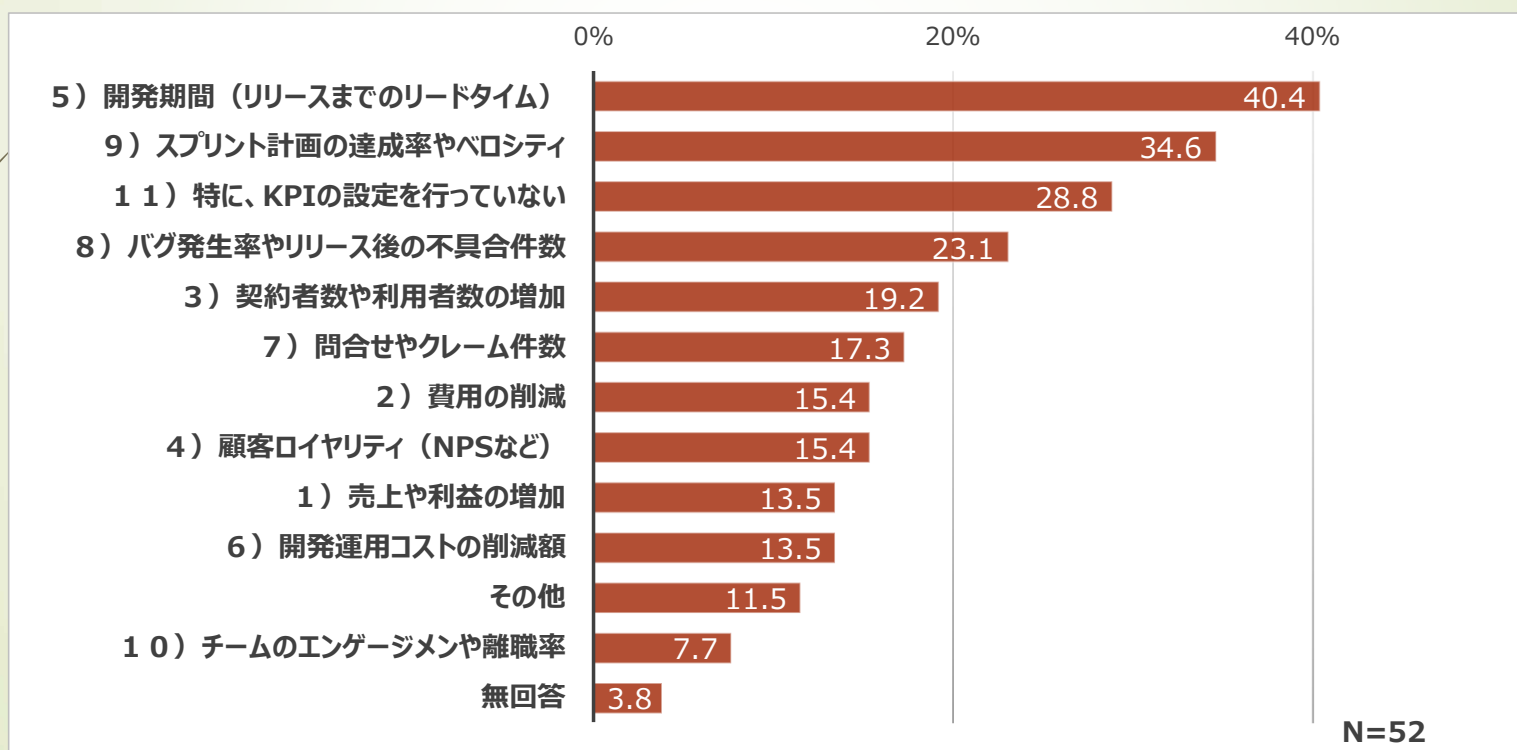
ビジネス価値

- アジャイル開発が単なる開発手法ではなく、ビジネス価値を最大化するための戦略的手段として位置づけられている



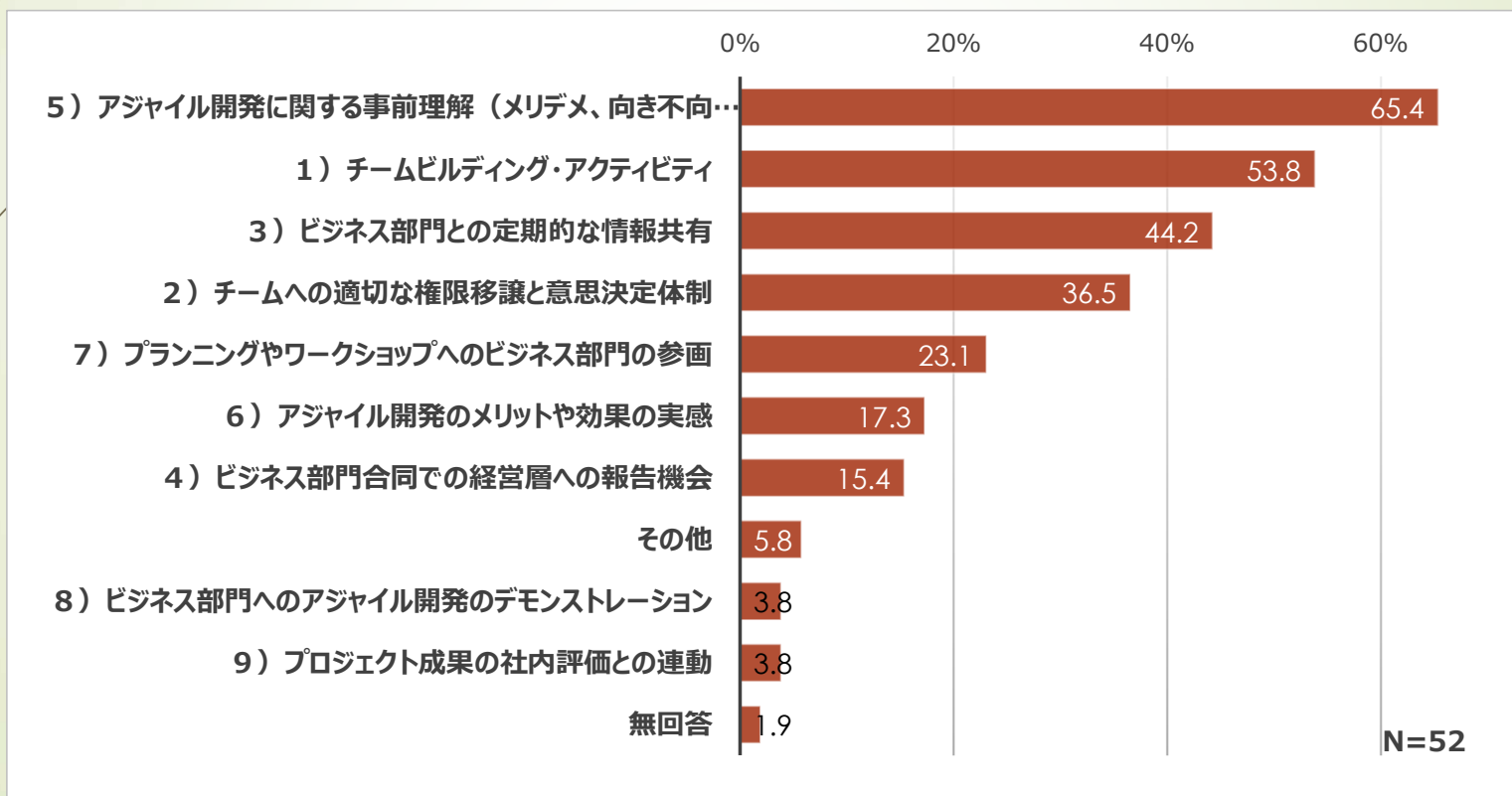
KPI設定状況

- 「ビジネス成果指標」よりも「開発プロセス指標」に重点が置かれている
- ・ビジネス価値を期待しながらも、それを測り評価する方法や指標への意識が小さい状況は、アジャイル開発への投資対効果の説明を困難にし、さらなる変革への投資判断を阻害しかねないリスク要因にもなり得る



アジャイル開発を成功に導く要因

- ➡ アジャイル開発がビジネス価値や成果を目指す以上、ビジネス部門参画が不可欠
- ➡ ビジネス部門のPOこそが、測定指標を開発プロセス中心から「売上や利益の増加」といったビジネス価値中心へと転換させるための中心的人物になり得る



TIPSとメトリクスの方向性

アジャイル開発成功の樹と果実を育てる

効果(メリット)

- ・ビジネス成果の早期獲得
- ・ビジネスの環境変化への迅速な対応
- ・ユーザー満足度の向上
- ・継続的な業務の品質/機能の改善
- ・要件に応じた開発量の統制 など

①ビジネス部門の参画

⇒アジャイル開発の事前理解、
チームビルディング活動
ユーザーとの定期的情報共有

②プロダクトオーナー

⇒ビジネス部門所属が効果大

③技術プラクティス

⇒CI/CD、自動テスト実践 など

TIPS (ノウハウ)



主要
課題

メトリクス(評価指標)の方向性(例)

<ビジネス成果指標>

- ・売上や利益の増加、費用の削減
- ・契約者数や利用者数の増加
- ・顧客ロイヤリティ(NPSなど)
- ・問い合わせやクレーム件数 など

<開発プロセス指標>

- ・Four Keys
(デプロイ頻度、変更リードタイム、
変更失敗率、復旧時間)
- ・スプリントの数・ベロシティ・QCD
- ・チームのエンゲージメント
- ・ユーザー部門の積極関与 など

- ✓ プロジェクトをリードできる人材の不足
- ✓ 開発メンバーのスキル不足
- ✓ アジャイル開発のマインドセットの欠如
- ✓ 内製化、開発コストの最適化 など



クラウド
(IaaS/PaaS)



パッケージ
(SaaSを含む)



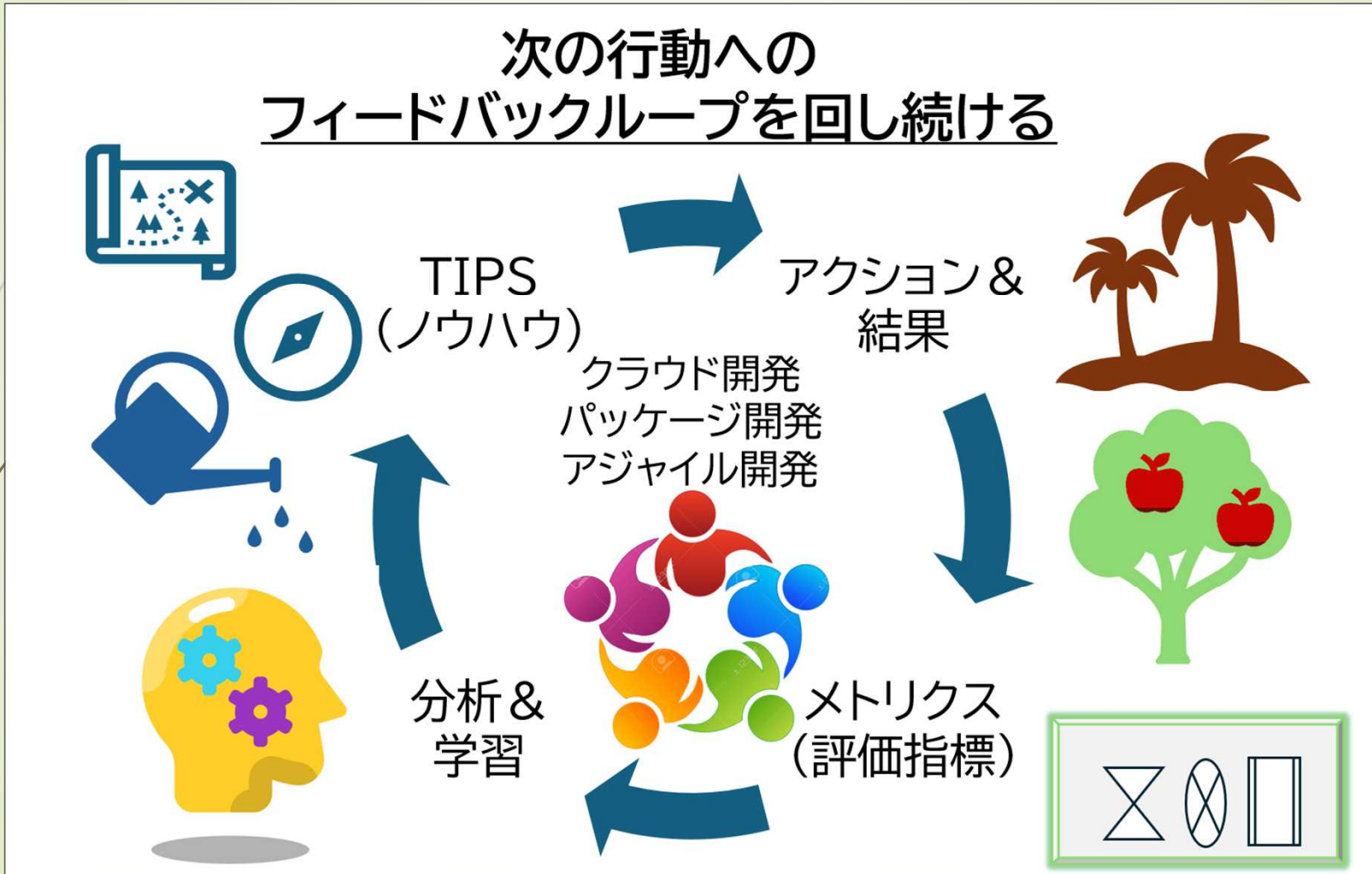
アジャイル

重要成功要因

- 企業はもはや、新しい技術や開発手法を単なる選択肢の一つとしてではなく、**競争優位を確立するための戦略的エンジン**として位置づけている。
しかし同時に、その理想と現実の間には、技術的な導入だけでは解決できない**「組織・人材・文化」の壁**が存在する
- クラウド（IaaS/PaaS）環境 : インフラから「ビジネス基盤」への昇華
パッケージ（SaaS含む）活用 : Fit to Standardによる業務改革の実践
アジャイル開発 : 期待と指標のギャップを乗り越える
- 「技術そのもの」よりも、**その技術を使いこなし、価値に変換するための「人材」と「組織能力」**を如何に確保していくか
 - ・ビジネス部門とIT部門との共創
 - ・人材・スキルの戦略的な育成
 - ・価値提供とスピード重視のガバナンス文化

フィードバックループ

次の行動への
フィードバックループを回し続ける



ご視聴ありがとうございました

- ▶ 本プロジェクト問合せ先

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
swm-juas@juas.or.jp